

筑波大学特別支援教育連携推進グループ

令和7年度現職教員研修 実践実習の様子②

(専門性向上コース・1年)

現職教員研修生の宮木沙絵先生（北海道帯広聾学校）は、令和7年9月30日（火）から12月23日（火）まで、附属聴覚特別支援学校幼稚部にて、実践実習2期に取り組まれました。

前半は3歳児学級、後半は4歳児学級に配属され、遊びや生活全般を通しての子どもとの関わりや授業参観、そして宮木先生自身の授業実践から、研究テーマ「聴覚障害幼児同士のやりとりを育む指導者の関わり方に関する研究」についての学びを深めてこられました。日々、幼稚部の先生方と授業についての振り返りを行い、特に話し合い活動の中での子どもとの関わり方について、実りある知見が蓄積されてきました。

12月17日（水）には4歳児学級で研究授業が行われました。子どもたちは仲良しで、友達と遊ぶのが大好きです。そこで、何をして遊ぶのか考える話し合い活動となりました。宮木先生は、活発に思いを表現する子どもたちの気持ちを大切にしながら、全員が友達の話をわかって考えられるように、丁寧に授業を進めていらっしゃいました。表情や口形、明瞭な音声等、聴覚口話法の基本は押さえつつ、板書、手話、音韻サイン等、様々な手段も活用されていました。「みんなでやろうよ!」「(その遊びを)知らないから、やりたくないの」……いろいろな思いが飛び交いつつも、最後はみんなで心から楽しく遊ぶことができました。翌日の研究会でも、授業を見られた幼稚部や教務部の先生方から、「宮木先生の丁寧な子どもとの向き合い方に子どもが応えてくれた」というコメントや、建設的な質問・意見が寄せられ、学びの多い機会となりました。

そして12月23日（火）、実習の最終日、宮木先生は幼稚部の子ども全員の前で最後の挨拶をされました。絵や写真を見せながら、実習中のそれぞれの学年との思い出について、話をしてくださりました。教室でのお話、製作活動、芋ほり、ハロウィン、遠足、三輪車遊び……聞いている子どもたちからも、そのときの出来事を振り返って、「あのときはこうだったよね」と、声が上がりました。それから、子どもたちに用意した手紙も見せてくださりました。宮木先生が大好きな子どもたちは、大喜びです。もしかすると、寂しがっていた子どももいたかもしれません。宮木先生のもとへ駆け寄って集まる子どもたちの姿もみられました。これも、宮木先生が真摯に子どもたちと関わってきた、1つの成果であるように思います。宮木先生自身、積極的に学ぼうとしながら、5月からの実習に取り組んでこられました。

今年度の実習を受け入れていただき、多くのご協力やご高配をいただいた附属聴覚特別支援学校の先生方に、感謝を申し上げます。

今後は東京キャンパスにて研修全体のまとめを行い、令和8年3月9日（月）の成果報告会にて報告をされる予定です。研修全体の振り返りや、研究テーマに関する考察について、とても期待されるところです。



北海道に戻る話をする宮木先生



手紙を見せる宮木先生